

オープン市場短信 (2013年8月)

2013. 8. 15

◆ 7月のCP市場動向

7月のCP（短期社債）月末残高は、15兆6849億円と前月比8247億円の増加となった。しかし、7月末残としては過去最低の水準であり、3ヶ月連続で前年比マイナスとなった。

一般事業法人は、6月末残を大きく減少させた鉄鋼・電機等の復活発行により+30.32%の大幅増加。金融機関発行分で、+3.05%の増加となった。一方、その他金融では▲1.09%、ABCPで▲6.75%とそれぞれ減少した。

発行レートは、ディーラー中心に購入意欲旺盛で、全般的にレート低下が顕著となった。一般事法では、期間・銘柄共に格差が殆ど生じない状況となり、多くの銘柄で0.100%台前半での発行となっていた。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.100%～0.102% 一般事業法人（a-1格）0.102%～0.111%

その他金融銘柄（a-1格）0.102%～0.125%

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	7月末残高	6月末残高	増減
一般事法	49,746	38,172	11,574
その他金融	58,047	58,686	▲ 639
金融機関	31,121	30,201	920
（政府系金融	330	350	▲ 20 ）
（ 銀行等	13,422	12,662	760 ）
（ 証券	17,369	17,189	180 ）
ABCP	17,935	21,543	▲ 3,608
計	156,849	148,602	8,247

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

7月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格付	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
a-1+(一般事法)	0.0980% ~ 0.1010%	0.1010% ~ 0.1020%	0.1000% ~ 0.1020%
a-1 (一般事法)	0.1010% ~ 0.1120%	0.1010% ~ 0.1110%	0.1020% ~ 0.1110%
a-1+(リース銘柄)	0.0980% ~ 0.1000%	0.1000% ~ 0.1010%	—— ~ ——
a-1 (リース銘柄)	0.1000% ~ 0.1100%	0.1020% ~ 0.1200%	0.1020% ~ 0.1250%
a-2	0.1260% ~ ケ 0.25%	0.1055% ~ ケ 0.30%	0.1280% ~ ケ 0.40%

《CPオペ》

CP買入オペは、7月は9日・17日・25日と3回実行された。9日・17日のオペでは、発行レートの低下が進んでいる中ではあったが、ディーラーの応札意欲が強く、落札レートは前回比横這い推移となった。25日のオペでは、ディーラーの応札も発行レートに即した動きとなり、足切り・按分レートともに低下した。

【7月末のオペ残高・・・2兆478億円】

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
7月9日	7月12日	4,000	8,190	3,813	0.101%	0.102%	67.0%
7月17日	7月22日	4,000	7,966	3,839	0.101%	0.103%	19.1%
7月25日	7月30日	4,000	6,349	3,552	0.099%	0.101%	78.1%

《ABC P》

ABC Pは、前月比 3608 億円減少し、1 兆 7935 億円となった。前年同月比では、902 億円の減少であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、発行登録企業数は新規登録がトーア再保険、登録抹消がみずほ銀行（注）・大阪証券金融・日立電線の3社で492社となっている。7月末時点における通算の発行企業数は、シミックホールディングスが初発行したことから、527社となった。

(注) みずほコーポレート銀行（同日付で株式会社みずほ銀行へ商号変更）との合併に伴い、登録抹消を行なった。

《CP現先市場》

現先（S/N）レートは、7月中も落ち着いて推移（0.098%～0.103%）した。

◆ 8月のCP市場動向

8月中のCP償還額は約3兆2200億円で、前年同月の償還額（約3兆3300億円）を下回っている（除く、金融機関発行CP・ABC）。

今月の発行の動きとしては、一般事法では、①引き続き設備投資等の資金調達ニーズが弱いこと、②中間決算期末を見据えた残高減少が生じること等から、発行増となる可能性は低いと思われる。その他金融では、前月比ほぼ横這い圏内での動きだろう。金融機関では、大幅な資金余剰が影響し発行見送りなど、調達ニーズ後退の動きが強まっている。

月末発行残高は、これらのことから前月よりも落ち込み、15兆円台前半に止まると思われる。

新発レートは、発行が伸び悩む中ディーラーの購入ニーズが旺盛な為、低下基調となっている。先月は、最上位銘柄での0.100%割れが散見されたが、8月になってからはa-1格銘柄でも、0.100%割れが続出している。今週に入ってから、発行したa-1格銘柄の半分以上が0.100%割れとなった。しかし、短期国債の水準をレート下限とする向きもあり、今後の下げ幅は限定的なものになろう。また、一部の銘柄においては、レートを戻す動きもある。

最上位銘柄では、0.090%台半ば～0.100%割れの出合い。a-1格の一般銘柄では、0.090%台後半～0.100%台半ばの出合い。a-1格のその他金融・リース銘柄では、0.100%近辺～0.120%近辺での出合いを、それぞれ予想する。

《CPオペ》

今月は、5日（実施済）・20日・26日と計3回の入札が何れもオファー額4000億円にて実施される予定。5日のオペ結果は、発行レートの低下が起因して、市場予想通り前回オペよりも弱含みとなった。次回以降についても、発行レートの低下が著しいことから、落札レートも弱含みを予想する。

月末オペ残高は、2兆円近辺を予想する。

《CP現先市場》

S/N物のレポレートは0.07%～0.09%近辺の出合いで月中推移すると思われ、インターバンクレートは、0.06%～0.08%近辺での推移を予想。

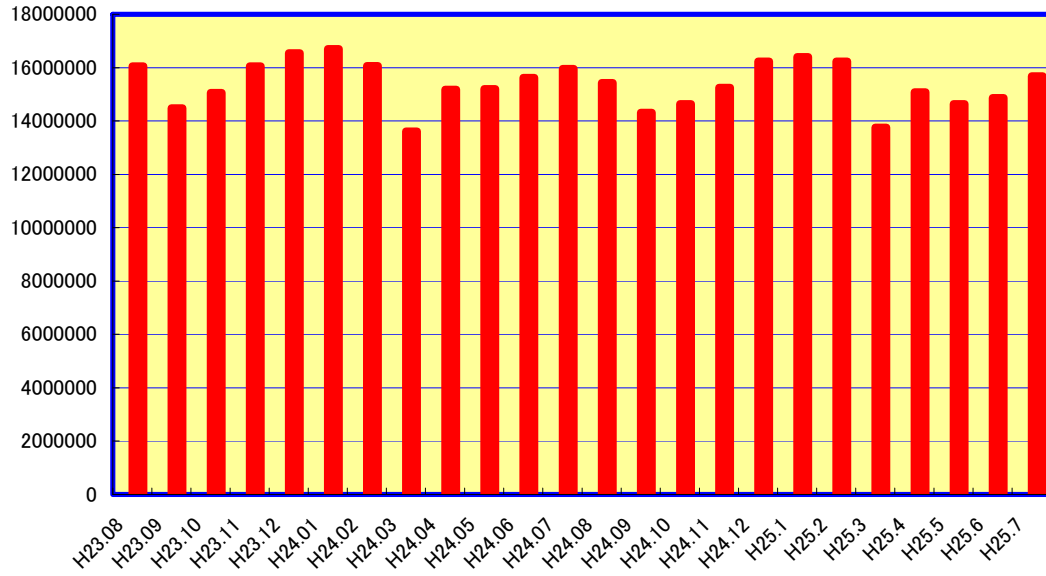
CP現先レートは、0.095%～0.100%近辺での出合いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高 (23年8月～25年7月)

発行登録企業：492社（発行実績あり 527社）

(過去2年間の残高を表示)



7月末発行残高ベスト20

7月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	7月末残高	6月末残高
1	三菱UFJリース	781,100	789,600
2	三井住友ファイナンス&リース	764,300	784,300
3	東京センチュリーリース	606,800	626,800
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	563,620	639,280
5	三菱UFJモルガンスタンレー証券	507,800	501,700
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	三井住友信託銀行	489,000	424,500
8	JXホールディングス	450,000	448,000
9	大和証券	363,580	320,980
10	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	338,120	400,730
11	JA三井リース	332,000	330,000
12	興銀リース	330,700	334,700
13	新日鐵住金	318,000	0
14	みずほ証券	317,600	300,100
15	アルカディア・ファンディング	303,570	325,440
16	野村證券	286,000	287,000
17	東芝	269,000	72,000
18	日立製作所	250,000	120,000
19	芙蓉総合リース	239,700	239,700
20	日本証券金融	217,000	226,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会